

令和4年度JAQG活動報告会について

1. はじめに

JAQG（Japanese Aerospace Quality Group：航空宇宙品質センター）は、世界の航空宇宙業界における品質活動をリードするIAQG（International Aerospace Quality Group：国際航空宇宙品質グループ）に対応した国内組織として、2001年当工業会（SJAC）内に設置された。品質に関する国際統一規格の制定、認証制度の確立を図ることにより、品質改善とコスト削減を行うことを目的としている。2001年設立当初のメンバー数79社から、現在、500社に達し、多くの企業・団体のご指導を受けながら活動を展開している。

ここでは、今年2月にJAQGメンバーに向けて開催された令和4年度のJAQG活動報告会の様子を紹介する。

2. 報告会概要

2020年、東京及び名古屋における対面での活動報告会を開催して以来、コロナ禍の中2021年から2022年はオンラインでの開催を余儀なくされてきたが、3年ぶりにハイブリッド

（対面とオンラインとの併用）で開催することができた。コロナ禍の間は、Web会議、Eメールでのやり取り及びファイル共有システム等を活用し、JAQGとしてのパフォーマンスの質及び量を低下させることなく、各種活動を継続してきた。

2022年度、JAQGは、以下に示す活動目標の達成を通じ、我が国航空宇宙産業の品質向上、業務の効率化及びコストの引き下げを図ってきた。

- ・ JIS Q 9100認証制度の運用と監視
- ・ 国際品質規格の普及（日本語への翻訳出版）
- ・ 品質保証に関するガイダンス／ベストプラクティスの提供
- ・ 国内業界意見をIAQG活動へ反映
- ・ 世界のプライム企業の品質要求動向把握等

今回、JAQGメンバーに向けて活動状況を説明するに当たり、各ワーキンググループが上記のJAQG活動目標達成に向け、どのように取り組んできたかに焦点をあてて行なった。



報告会の様子（名古屋会場）；2/10開催 対面参加者数：42名



オンラインでの配信：
オンラインでの参加者数：196名

また、質疑応答の時間を設け、会場では参加者から直接質問を受けてその場で回答、オンラインでの参加者からはWebを通して質問を受けて報告会の最後にまとめて回答をした。



会場での質疑応答風景

3. 報告会の内容

報告会での報告内容(概要)を報告順に沿って以下に示す。(末尾かっこ内は報告者)

(1) AIMM (Aerospace Improvement Maturity Model ; 9100成熟度モデル) の紹介
(三菱重工株式会社 西口 潤 IAQG9100 SDR《Sector Document Representative》)

9001/9100規格は「事業パフォーマンス及び顧客満足の向上」を要求しているが、本規格だけでは、その改善達成度を測定することはできない。また、一旦認証を取得すると、「認証を維持すること」だけが目的となってしまう。そこで、IAQGでは「9100規格に適合していれば良い」という考えから脱却し、成熟度評価を通して、組織のQMS (Quality Management System : 品質マネジメントシステム) を改善することを目的としてAIMM (9100成熟度モデル) を開発し、改善を測定し明確な目標を設定するツールを提供した。

IAQGのAIMM開発にはJAQGが参画していること、完成したAIMMモデルの全体概要、AIMMオンラインアプリケーションへのアクセス方法及びその使い方並びにJAQG規格検討WGで翻訳したAIMMの日本語版がIAQGのAIMMオンラインアプリケーションに搭載され、言語切り替え機能により利用できることなどが紹介された。

2023/02/10 活動報告会 Q&A

質問	カテゴリ	回答
画面が出演者の田字表示となっておりますが、スライドを全画面表示にする方法を教えてくださいませんか。	全般	右上のレイアウトから重ねて表示を設定してください。
AIMMは、審査の中で補足事項として追加されるといったことはありますか？	AIMM	審査には関係しません、また、9100の要求事項になるとは考えていません。
AIMMは義務ではなく、あくまでも自社の成熟度チェックとして確認するツールという位置づけのものでしょうか。	AIMM	はい、その通りです。義務ではなく、成熟度チェックのためのツールになります。
初回認証の数と、更新認証の数を把握したいが、そのように分けて統計を取ることは考えておられますか？撤退される企業の傾向が分かかって参考になると思います。	JAQG	現状は、一緒になっています。今後の検討課題とさせていただきます。

オンラインでの質疑応答 (一部)



西口 IAQG9100 SDR（三菱重工業株式会社）

(2) JAQG活動報告

（株式会社 I H I 山本 博士 JAQG幹事長）

昨年3月に開催の2022年度運営委員会で承認された活動戦略・事業計画に基づき、計画通りに活動が実施されていることが報告された。具体的には、IAQG活動への対応、国内への展開、IAQGへのフィードバック活動、JAQG独自戦略の強化、強固な品質マネジメントシステム構築に向けた活動の推進、関係省庁等のステークホルダーに対しJIS Q 9100シリーズ規格及び当該認証制度をご活用いただくための支援継続等についてである。トピックスとして、SJAC9120認証制度立上げに向けて認定機関による認証機関の認定が2023年2月から開始されること、SDO構想（Standard Development Organization；各セクターの規格発行団体を全世界で一つの発行団体とし、必要な翻訳を併行しつつ運営する構



山本 JAQG幹事長（株式会社 I H I）

想）の進捗状況及び本件に関するJAQGとしての対応状況が報告された。

(3) JRMC（Japan Registration Management Committee；航空宇宙審査登録管理委員会）活動報告（株式会社 S U B A R U 西本 光男 JRMC議長）

9100規格の認証制度では9001等の他の認証制度とは異なり、業界が自らスキームオーナーとなって関係機関を承認・監視するしくみを構築することによって、制度自体の信頼性を高めている。JRMCは、このスキームオーナーとしてJIS Q 9100の認証基準の整備を行うとともに、認証制度の維持・管理活動を行っている。令和4年度の主な取り組みとして以下の報告がなされた。

- ・ 認証制度の信頼性の維持・向上のため、ICOP（Industry Controlled Other Party Certification）スキーム規格に従い、国内認証制度の監視を計画通り（認定機関1、認証機関5、審査員資格証明機関1、研修提供者承認機関1に対するオーバーサイトを実施）に行った。
- ・ 関係機関に対する定期オーバーサイト結果の活用とOP（Other Party）監査員の育成に努めた。
- ・ 審査員の資格基準や認証プログラム基準（9104シリーズ規格、9101規格）のIAQG



西本 JRMC議長（株式会社 S U B A R U）

改正作業へ参画した。

- ・ JRMC会議／ワークショップを開催した。
- ・ SJAC9120認証制度の立上げ準備作業を行った。

(4) ワーキンググループ (WG) の活動報告 (各WG主査)

各ワーキンググループ (WG) 活動の今年度のトピックスを中心に報告を実施した。

(a) 規格検討WG活動報告

(株式会社 SUBARU 小田 晴信 主査)

IAQGでの規格の制定・改正活動へ参画し、JAQGとしての意見を積極的にIAQGに対して提言、IAQG規格に対応する国内規格の制定・改正作業を行い、IAQG展開支援文書の充実拡大(日本語翻訳版の発行)に努めていることが報告された。

発行準備中のIAQG規格としてIAQG9102「初回製品検査要求事項」及びIAQG9125「非納入ソフトウェアの管理」(国内ではそれぞれ、SJAC9102、SJAC9125規格として発行予定)について、また、国内独自規格としてSJAC9053「模倣品防止の管理」について準備を行っていることが報告された。



小田 規格検討WG主査(株式会社 SUBARU)

(b) 特殊工程検討WG活動報告 (川崎重工業株式会社 堀田 彰彦 主査)

特殊工程検討WGは、JAQGメンバーが特殊

工程プロセスの国際認証制度であるNadcap認証を取得・維持するための支援を実施している。主要な活動としてNadcap監査基準であるAC (Audit Criteria) 日英対訳版58アイテムをJAQGメンバー専用ページに公開していること、Nadcap認証制度の管理運営母体であるPRI (Performance Review Institute) の技術委員会に日本のサプライヤの意見を提言していること、PRIのプレゼンテーション資料の翻訳版を公開していること及びSAE (Society of Automotive Engineers) のAMS (Aerospace Material Specifications) スペックに対する意見提言等を行っていることなどが報告された。

また、新たな試みとして9月に対面でNadcap説明会を開催、Nadcap受審オペレーションについて、Nadcap受審準備・受審当日の対応・是正処置等に関し、特殊工程検討WGメンバーの経験を踏まえた「受審のノウハウ」を、参加したJAQGメンバーに対して説明を行ったことが紹介された。



堀田 特殊工程検討WG 主査
(川崎重工業株式会社)

さらに、本年度のWG活動のトピックスとして、ダヴェンポート 悠 様 (PRI日本事務所 マネジャー) にNadcapの最新活動状況を紹介して頂いた。



ダヴェンポート 悠 様、
PRI 日本事務所 マネジャー

(c) スペースフォーラム活動報告 (IHIエアロスペース株式会社 松井 直樹 主査)

JAQGスペースフォーラム (以下、SF) は、国内宇宙業界が一体となって、JIS Q 9100品質マネジメントシステムを展開し、日本の宇宙製品の品質の著しい改善とコスト低減を図ることを活動方針としている。

アジア太平洋地域唯一のSFとして、地域のSF活動を牽引する活動として、アジア・太平洋地域宇宙機関会議 (APRSAF-28 2022年11月ベトナム ハノイ) に参加し、JIS Q 9100に準拠した JAXA品質要求文書「JMR-013 品質プログラム標準」を用いたQMS活動の紹介を行い、アジア太平洋地区の宇宙関連機関への導入支援に関する検討を行っていることが報告された。また、ステー



松井 スペースフォーラム 主査
(IHIエアロスペース株式会社)

クホルダーとの多くの意見交換の場を持ち、9100の適用による付加価値向上に向けたSF活動として、保険業界に向けた9100適用の意義を広報する検討を行っていることが紹介された。

(d) SCMH (Supply Chain Management Handbook) WG活動報告
(株式会社 IHI 佐藤 浩光 主査)

SCMHとはサプライヤのためのガイダンス文書、トレーニング資料及びベストプラクティスを集めた既存の規格を補足し、「どうすれば要求事項を満たせるのか」又「どうすれば改善、向上を図ることができるのか」に焦点を当てた文書であり、その開発はIAQG戦略の重要な活動の一つである。SCMH WGは、このIAQGにおけるSCMH開発に参画している。2022年1月現在で47項目のSCMHが発行されており、また、IAQGでは新たに7文書の作成・改正に取り組んでいる。SCMH WGでは、作成・改正されたSCMHの日本語翻訳作業を順次実施し、その成果をJAQGメンバー専用ページに公開、JAQGメンバーへの普及を図っている。

今年度は、IAQG SCMH文書5件の和訳版を作成、更に現在4件の和訳作業に取り組んでいることが報告された。また、SCMH説明会を



佐藤 SCMH WG 主査 (株式会社 IHI)

ハイブリッド方式の東京会場で開催し、対面参加者20名、オンライン参加者240名に対して、製品安全の認識、リスクマネジメント、力量管理の三項目に関する説明を行い、アンケート回答協力130名のうち8割以上の参加者から“満足度が高い／やや高い”との評価がなされたことが紹介された。

(e) コミュニケーションWG活動報告 (JAQG 事務局／日本航空宇宙工業会 前畑 貴芳 主査)

本WGではJAQGウェブサイト維持・改修、JAQGニュースやウェブ通知、各種説明会の企画、JAQGメンバーからの直接問い合わせ等を通じて会員へ最新情報をタイムリーに提供している。

今年度は、46件のJAQGニュース配信を行ったこと、IAQGニュースレターの和訳版をJAQGウェブサイトに掲載したこと、SJAC規格のサブスクリプション販売を開始したこと、JAQGウェブサイトの再構築を行っていること及びJAQGの活動報告を「航空と宇宙」(日本航空宇宙工業会会報)に掲載したこと等、主としてJAQG広報推進に関わるWGの取り組みが報告された。



前畑 コミュニケーションWG 主査
(日本航空宇宙工業会)

(5) IAQG/APAQG (Asia-Pacific Aerospace Quality Group) 活動報告 (三菱重工業株式会社 渡辺 秀 APAQGセクター・リーダー)

IAQG/APAQG活動に参加する目的は、品質関連の国際会議に積極的に参加し、日本の航空宇宙産業の意見を国際品質規格や国際航空宇宙認証制度のルールなどに反映させることである。

2022年は、IAQGブリュッセル会議(2022年5月)、IAQGダラス会議(2022年10月)、APAQGバーチャル会議(2022年3月、9月)に参加し、9100シリーズ規格他、新規規格の開発・維持、航空当局・防衛・宇宙等のステークホルダーとの関係強化、品質改善活動(パフォーマンス評価)、IAQGデジタル化の推進等について協議したことが報告された。特に、トピックスとしてIAQGシングルSDOについて、現在、規格発行・各国語版発行プロセスについてのIAQGルールを再構築中であること、再構築したルールに従って試行した上で本格適用に向けた作業を行っていくことが紹介された。

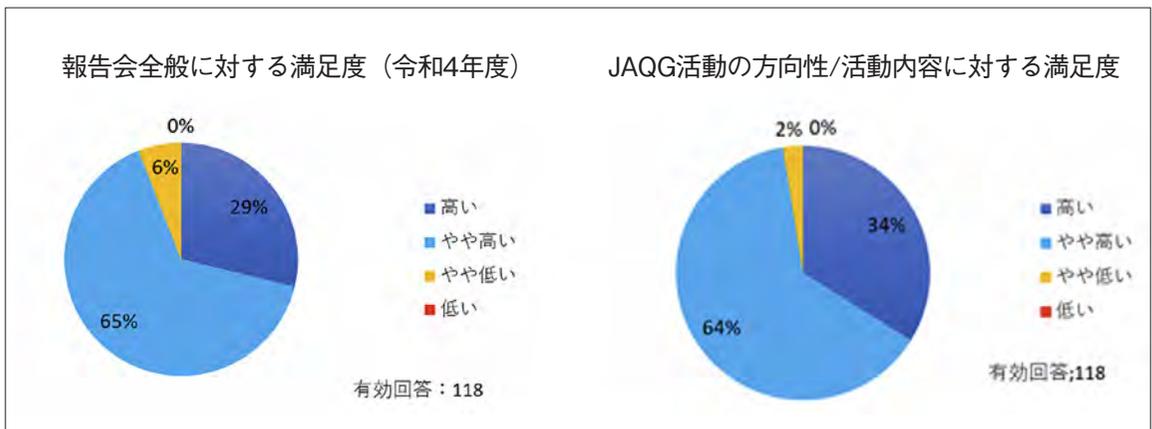


渡辺 APAQGセクター・リーダー
(三菱重工業株式会社)

4. おわりに

本活動報告会を通じて、JAQG活動に関する理解を深めていただくとともに、参加されたメンバーから活発なご質問及び貴重なご意見を多数頂戴した。また、報告会終了後に行ったアンケートでは、参加されたメンバーからの“報告会全般に対する満足度”は94%と高く、JAQG活動の方向性／活動内容についても同様に高い支持を得ることが出来た。

アンケートで頂戴したご意見は今後のJAQG活動の参考とさせていただきます、引き続きメンバー各社の品質向上及びコスト低減への一助となるように精力的に活動を進めていく所存ですので、よろしくお願い申し上げます。



〔(一社) 日本航空宇宙工業会 JAQG事務局 部長 前畑 貴芳〕